

特別対談 東日本大震災から8年 いつ起こるかわからない 災害に備えて

甚大な被害をもたらした東日本大震災。各地で復興は進んでいるものの、未だ震災による避難者数は5万人を数えます。今後高い確率で発生するといわれる南海トラフ地震をはじめ、災害はいつ、どこで起こるかわかりません。

東日本大震災で被災された五十嵐浩子さんと、防災士の渡辺志朗さんに防災への心得をお話しいただきました。



津波の被害を受けた宮城県石巻市雄勝町。港から4km内陸部まで、コンクリートの建物以外はすべて押し流された。(赤のラインは津波の高さ)

渡辺 志朗 さん
特定非営利活動法人日本防災士会防災士。東日本大震災、熊本地震等の被災地を訪れ、「南海トラフ巨大地震などの災害に備える術は何なのか」を肌で感じ、地域の防災講演で防災意識啓発に力を入れている。

五十嵐 浩子 さん
東日本大震災で被災し、福島県浪江町から高山市に移住。現在は3人の子を育てながら、体験談や災害時への備えなどの講演を聞く。災害被害の予防・復興・支援に関する事業を行う「NPO 法人すえひろ」の理事。

東日本大震災を機に高山市に移住されたそうなんです

五十嵐さん／福島県浪江町で震災に遭いました。我が家は内陸にあったため津波の被害からは逃れましたが、原発事故の影響もあり、避難所を転々となりました。親戚の家に身を寄せていましたが、福島から出ようと決意。被災者支援マッチングサイト「震災ホームステイ」で住居を探し、高山市の一軒家を見つけました。知り合いがいらないのももちろん、高山市がどこにあるかも知りませんでした。

被災地で感じたことを教えてください

渡辺さん／東日本大震災発生時は県職員として、現地への派遣部隊が携帯する衛星電話を手配するなどの業務にあたりました。実際に現地を訪れたのは、2011年4月下旬。震災発生前から防災教育に取り組んできた釜石市では、ほとんどの児童・生徒の命が助かったことを耳にし、防災教育の大切さを改めて実感しました。

五十嵐さん／そうですね。私は高山市内の小学校で講演をさせていただきました。

かりとしたしつけが大切です。飼い主が身につけるべきマナーや心構えなどもお伝えしています。先程、渡辺さんが防災講座を挙げていましたがさらに、子どもや高齢者など災害弱者に寄り添った避難所運営の重要性なども、行政に働きかけていきたいと考えています。

ありがとうございました

聞き手／近松香代理事

しているのですが、災害はいつ起こるか予測できないことを踏まえて、「防災訓練を事前に子どもたちに告知しないこと」をお願いします。

避難生活で不足したもののや、困ったことは？

五十嵐さん／「情報」ですね。福島から離れようと決意したのも、「放射能の影響があるかもしれない」と東京在住の友人が教えてくれたことがきっかけです。被災地にいなながら、情報が全く手に入らなかったのです。また、避難所に行けば何でもそろっていると思っている方が多いですが、避難所生活初日は食料や生活用品すら全くありませんでした。

渡辺さん／被災地によって状況はさまざまです。熊本地震では通信網の被害が少なかったため、SNSなどによって救援物資が集積場に殺到しました。大量の食料や水が集まりながらも、仕分けをする人材が不足し、被災者への配達が停滞するなどの問題が起こりました。

五十嵐さん／渡辺さんがおっしゃるように、どのような状況になるかわかりません。必要なものは、自分でそろえる。特に医薬品やオムツなど他で代用できないものは自分で用意しておくこ

生き残ったあとに、生き延びられるよう準備を！

とが大切です。生き残ったあとに、生き延びられるよう準備を！

災害に備えて、私たちが今すべきことは？

渡辺さん／災害は想定外のことが起こるものです。「災害は起こらない、私は大丈夫」という考えを改めなくてはなりません。災害を自分のこととして捉え、「もし自分のまぢで災害が起こったら」と考えてみましょう。自分が普段通る道に、倒れそうなブロック塀や自販機がないかなどチェックするのもいいですね。大切なのは、まずは自分の命を守ることなのです。

五十嵐さん／地震の規模が小さくても局所的に強い揺れを起こす直下型地震は、家具転倒の恐れがあります。寝室には倒れそうな物を置かないこ



とや、家具の固定をするなどをし、逃げ道を確認することが必要です。また、家族が離れ離れで被災したときはどのように連絡を取り合うのかなど、災害時を想定して話し合うことも必要です。

今後の取り組みを教えてください

渡辺さん／講演会を通して防災啓発に取り組んでいます。興味を持って足を運んでくださるのは60代以上の方ばかりで、30・40代の参加が少ないのが現状です。子どもを対象とした防災講座を開けば、親世代に情報が伝わるのではないかと考え、今後はさらに防災教育に力を入れていく予定です。

五十嵐さん／私はペットの防災についても力を入れています。多数の方が生活を送る避難所生活では、しっ

3.11を忘れない くらし・地域復興応援募金のご案内

あれから8年。東北三県では未だ5.3万人の方が避難生活を余儀なくされています。福島県では原発事故の被害・影響から4.2万人の方が県内外に避難されたままです。コプギふでは「くらし・地域復興応援募金」を活用し、被災地の復興支援に取り組んでいます。

募金名	注文番号	内容	
くらし・地域復興応援募金	3991	1口	100円
	3992	1口	1,000円

共同購入をご利用の方は、右記の番号で受け付けています。店舗ご利用の方は、募金箱又はサービスカウンターまでお寄せください。

いているのですが、災害はいつ起こるか予測できないことを踏まえて、「防災訓練を事前に子どもたちへ告知しないこと」をお願いしています。

避難生活で

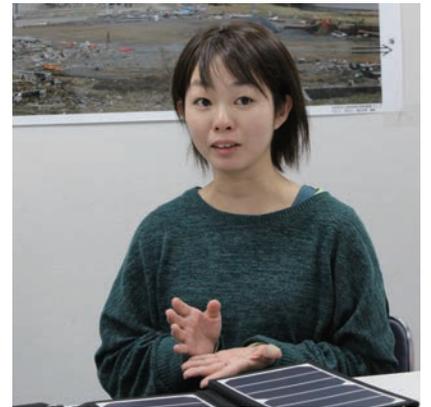
不足したものや、困ったことは？

五十嵐さん／「情報」ですね。福島から離れようと決意したのも、「放射能の影響があるかもしれない」と東京在住の友人が教えてくれたことがきっかけです。被災地にいながら、情報が全く手に入らなかったのです。また、避難所に行けば何でもそろっていると思っている方が多いですが、避難所生活初日は食料や生活用品すら全くありませんでした。

渡辺さん／被災地によって状況はさまざまです。熊本地震では通信網の被害が少なかったため、SNSなどによって救援物資が集積場に殺到しました。大量の食料や水が集まりました。大量の食料や水が集まりました。被災者への配送が停滞するなどの問題が起きました。

五十嵐さん／渡辺さんがおっしゃるように、どのような状況になるかわかりません。必要なものは、自分でそろえる、特に医薬品やオムツなどで代用できないものは自分で用意しておくこ

生き残ったあとに、生き延びられるよう準備を！



とが大切です。生き残ったあとに、生き延びられるよう準備を！

災害に備えて、私たちが今すべきことは？

渡辺さん／災害は想定外のことが起こるものです。「災害は起こらない、私は大丈夫」という考えを改めなくてはなりません。災害を自分のこととして捉え、「もし自分のまわで災害が起こったら」と考えてみましょう。自分が普段通る道に、倒れそうなブロック塀や自販機がないかなどチェックするのもいいですね。大切なのは、まずは自分の命を守ることなのです。

五十嵐さん／地震の規模が小さくても局所的に強い揺れを起こす直下型地震は、家具転倒の恐れがあります。寝室には倒れそうな物を置かないこ

とや、家具の固定をするなどをし、逃げ道を確認することが必要です。また、家族が離れ離れで被災したときはどのように連絡を取り合うのかなど、災害時を想定して話し合うことも必要です。

今後の取り組みを教えてください

渡辺さん／講演会を通して防災啓発に取り組んでいます。興味を持って足を運んでくださるのは60代以上の方ばかりで、30・40代の参加が少ないのが現状です。子どもを対象とした防災講座を開けば、親世代に情報が伝わるのではないかと考え、今後はさらに防災教育に力を入れていく予定です。

五十嵐さん／私はベットの防災についても力を入れています。多数の方が生活を送る避難所生活では、しっ



かりとしたしつけが大切です。飼いが身に付けるべきマナーや心構えなどもお伝えしています。先程、渡辺さんが防災講座を挙げていただきました。さらに、子どもや高齢者など災害弱者に寄り添った避難所運営の重要性なども、行政に働きかけていきたいと考えています。

聞き手／近松香代理事

ありがとうございました

3.11を忘れない 暮らし・地域復興応援募金のご案内

あれから8年。東北三県では未だ5.3万人の方が避難生活を余儀なくされています。福島県では原発事故の被害・影響から4.2万人の方が県内外に避難されたままです。コープぎふでは「暮らし・地域復興応援募金」を活用し、被災地の復興支援に取り組んでいます。

共同購入をご利用の方は、右記の番号で受け付けています。店舗ご利用の方は、募金箱又はサービスカウンターまでお寄せください。

募金名	注文番号	内容
暮らし・地域復興応援募金	3991	1口 100円
	3992	1口 1,000円

いつ起こるかわからない 災害に備えて

甚大な被害をもたらした東日本大震災。各地で復興は進んでいるものの、未だ震災による避難者数は5万人を数えます。今後高い確率で発生するといわれる南海トラフ地震をはじめ、災害はいつ、どこで起こるかわかりません。

東日本大震災で被災された五十嵐浩子いがらしひろこさんと、防災士の渡辺志朗わたなべしろうさんに防災への心得をお話しいただきました。

津波の被害を受けた宮城県石巻市雄勝町。港から4km内陸部まで、コンクリートの建物以外はすべて押し流された。
(赤のラインは津波の高さ)

渡辺 志朗 さん

特定非営利活動法人日本防災士会防災士。東日本大震災、熊本地震等の被災地を訪れ、「南海トラフ巨大地震などの災害に備える術は何か」を肌で感じ、地域の防災講演で防災意識啓発に力を入れている。

五十嵐 浩子 さん

東日本大震災で被災し、福島県浪江町から高山市に移住。現在は3人の子を育てながら、体験談や災害時への備えなどの講演を開く。災害被害の予防・復興・支援に関する事業を行う「NPO法人すえひろ」の理事。

**東日本大震災を機に
高山市に移住された
そうですね**

五十嵐さん／福島県浪江町で震災に遭いました。我が家は内陸にあったため津波の被害からは逃れましたが、原発事故の影響もあり、避難所を転々となりました。親戚の家に身を寄せていましたが、福島から出ようと決意。被災者支援マッチングサイト「震災ホームステイ」で住居を探し、高山市の一軒家を見つけました。知り合いがいけないのももちろん、高山市がどこにあるかも知りませんでした。

**被災地で感じたことを
教えてください**

渡辺さん／東日本大震災発生時は県職員として、現地への派遣部隊が携帯する衛星電話を手配するなどの業務にあたりました。実際に現地を訪れたのは、2011年4月下旬。震災発生前から防災教育に取り組んできた釜石市では、ほとんどの児童・生徒の命が助かったことを耳にし、防災教育の大切さを改めて実感しました。

五十嵐さん／そうですね。私は高山市内の小学校で講演をさせていた